

平成 29 年度 傾斜的研究費（全学分） 研究報告書

【研究代表者所属】：産業技術研究科情報アーキテクチャ専攻

【研究代表者氏名】：小山 裕司

【研究代表者氏名フリガナ】：コヤマ ヒロシ

【研究代表者職】：教授

【国内研究分担者（所属、氏名、職）】

- 産業技術研究科、亀井 省吾、特任准教授

【国外研究分担者（所属、氏名、職）】

- 無し

【研究課題名】：アイデアソン・ハッカソン等のイノベーションメソッドに関する調査及び研究

【研究実績の概要（600～800 字程度で記入。図、グラフ等の使用も可。）】

既存のアイデアソン、ハッカソン等のイノベーションメソッドを調査、整理、評価を行い、社会人学び直し教育及び高度専門職教育を対象にした新規のイノベーションメソッドの設計及び開発を行った。また、実証のためのアイデアソン、ハッカソンを開催し、各種のメソッドの試行を行い、効果を評価した。

- 文科省委託事業「高度人材養成のための社会人学び直し大学院プログラム」で採択された「次世代成長産業分野での事業開発・事業改革のための高度人材養成プログラム」（H26-H28）の PBL キャンプでの既存のアイデアソン、ハッカソン等のイノベーションメソッド実践を、本学の社会人学び直し教育で留意すべき多様性の特徴と集合知発揮要件としての集約の観点から、集団的課題解決手法として調査、整理、評価した。
- これにより、多様な集合知集約方法として、フィールドワークの有効性と、各種の汎用メソッドツールの有効性が示唆された。
- 本学開催の AIIT 起業塾#9、#11 では、アイデアソンを実施し、汎用メソッドツールを使い、#9 では課題当事者を招聘、#10 では課題現場のフィールドワークを試行し、効果検証を行った。
- 本学のように、タスク型多様性を有する社会人学生が学ぶ専門職大学院では、事例研究型、PBL 型（プロジェクト演習）等の集団的課題解決型授業の設計にあたって、今回提示した集合知発揮要件としての集約の仕組み、「感染的模倣」ミメーシスを起こす為のフィールドワーク、課題当事者参加、汎用メソッドツールを適時適切に活用することが有効であることがわかった。特に、提示した集合知発揮要件は、今日の IT 分野等でのリーンスタートアップ等の集団的課題解決では特に効果を発揮すると判断している。

当研究の成果は、関連学会等で論文・学会で発表告した（学会発表 3 件、論文発表 1 件）。

【学会発表（発表題目、発表大会名、年月を記入）】

- 亀井 省吾、小山 裕司：「集団的課題解決における転換モメンタムとフィールドワークからの知見」、第 15 回情報コミュニケーション学会 全国大会、2018 年 3 月（兵庫）
- 亀井 省吾、小山 裕司：「PBL 課題解決プロセスにおける「多様性」と「ミメーシス」概念からの示唆 - 専門職大学院でのアイデアソン・ハッカソン実施事例からの考察」、第 42 回教育システム情報学会 全国大会、2017 年 8 月（福岡）

- 亀井 省吾、小山 裕司:「集团的課題解決における集合知活用とメソッドについての一考察」、情報社会学会 2017 年年次研究発表大会、2017 年 7 月(東京)

【論文発表又は著書発行（発表題目、著者、発表誌又は出版社、年月を記入）】

- 亀井省吾、小山 裕司:「集团的課題解決における集合知発揮要件に関する一考察 — 専門職大学院でのアイデアソン・ハッカソン実施事例を通じて」、産業技術大学院大学紀要 第 11 号、2017 年 12 月

【作品等】

- 無し

【科学研究費補助金への応募状況、採択状況】

- 無し

【国等の提案公募型研究費、企業からの受託研究費・共同研究費の獲得状況】

- 無し

【受賞等】

- 無し

【その他社会貢献】

[公的審議会・委員会等の公的貢献、生涯学習支援・普及啓発、国際貢献・国際交流等]

- 無し

【研究成果による特許等の工業所有権の出願・取得状況】

(工業所有権の名称、発明者、権利者、工業所有権の種類・番号、出願年月日、取得年月日)

- 無し

【研究分担額】

(研究代表者・分担者名、所属、金額 (円))

- 小山 裕司・亀井 省吾、産業技術大学院大学 産業技術研究科、560,000 円